

TVドラマ『日本沈没—希望のひと—』の教訓

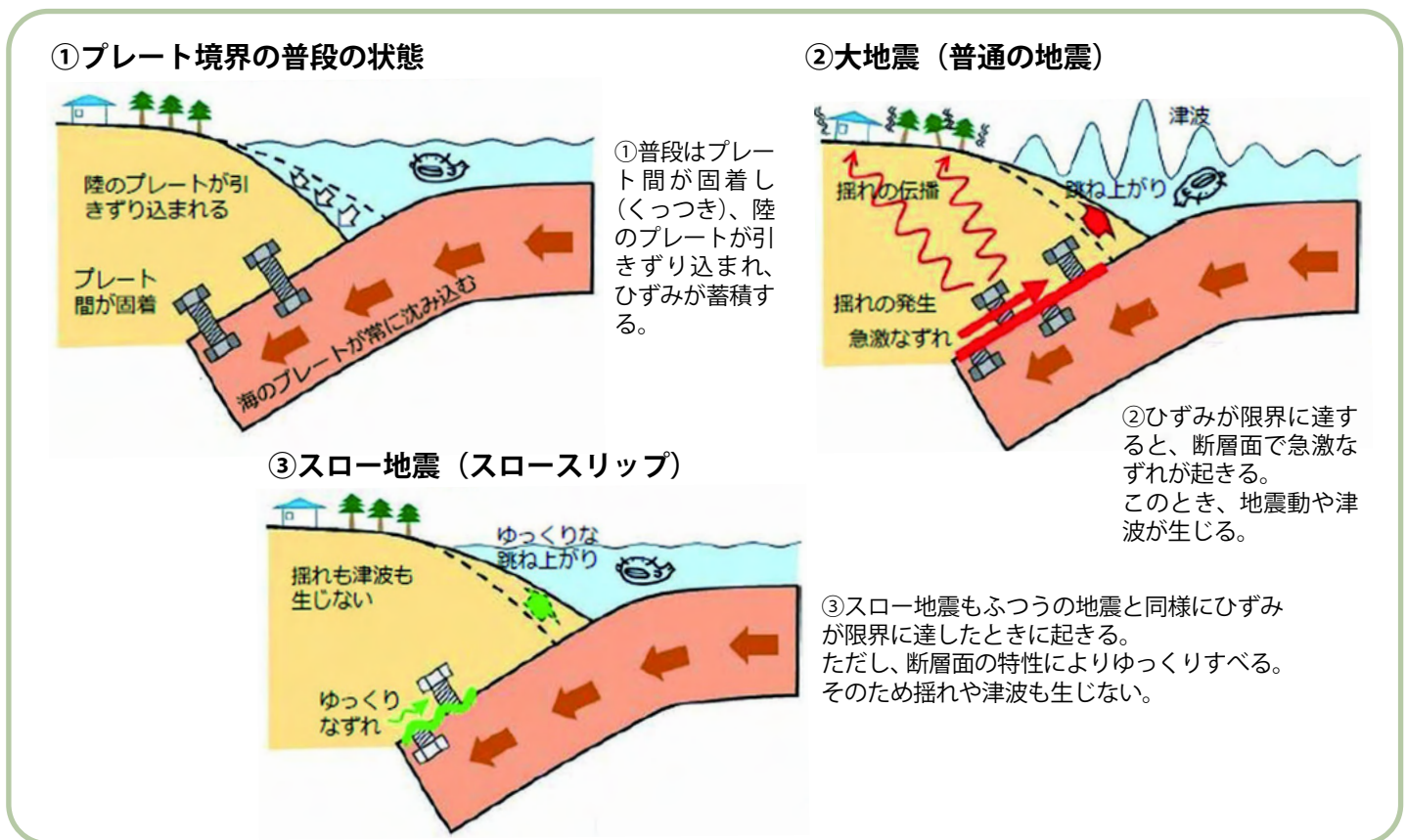
災害は突然襲う。 半年以内に80%の確率ということは、 明日かもしれない。

1973年に光文社カッパ・ノベルズで刊行された、小松左京原作の『日本沈没』は、上下巻合計385万部の大ヒットでした。その後、2006年に映画化、1974年にTVドラマ化されましたが、今年TBSテレビ系で2回目のドラマ化がされ、高視聴率を得ているようです。48年前の原作では、当時の地震学の最新理論であるプレートテクトニクスによって、「日本沈没」のメカニズムを解説していましたが、今回のテレビドラマ化では、「スロースリップ」(ゆっくり滑り)という最近注目されている情報がキーワードになっています。

2011年の東日本大震災では、数日前にスロースリップが発生していたことがわかり、それが大きな地震の引き金になったのではという知見があります。一方では、スロースリップが地震がさらに巨大化するのを食い止めたという研究結果も出されています。

■ スロースリップは揺れを感じにくい地震

(図：地震調査研究推進本部 HPより)



私も、AIR断震システムという、地震から家財と命を守る仕事をしているので、興味深く視聴しています。その中で、地球物理学者の田所博士の「災害は突然襲ってくる。数年以内ということは、明日かもしれない」の台詞を耳にし、身を引き締める思いになりました。いつ来るかもわからない大地震に対する備えは、早ければ早いほどいい。私たちの仕事はそのために必要なのだということを痛感しました。

